



# リベラルアーツ(教養)を高めるための英語授業 の実践報告

森永 弘司(同志社大学)  
日本英語教育学会第50回年次研究集会  
早稲田大学 2020/2/29

1. はじめに
2. 教養教育（Liberal Arts）の意味と意義.
3. 今回の授業実践の目的
4. 授業科目と受講者
5. 使用テキスト
6. 授業方法と成績評価
7. レポート課題
8. レポート課題の結果とその考察
9. DVD映画視聴課題
10. DVD映画選択の方法
11. DVD映画視聴課題についての考察
12. まとめ
13. 引用文献

# 1. はじめに

現在の大学の英語教育の2つの潮流

## 1. TOEICの得点増を主眼とするカリキュラム

標準テストとしての信頼度が高いので、教育効果測定の客観的な指標になる。近年ではより信頼度の高いテストを目指しSpeakingとWritingテストが導入されるようになった。

またユニクロ、楽天を始め多くの企業がTOEICの得点を重視する傾向がますます強くなってきている。

## 2. ESP (English for Specific Purposes) プログラムの導入の増加

専門科目に特化した英語カリキュラム（例えばEnglish for Science and Technology, English for Business, English for Nursing等）がますます増えつつある。

現在の大学の1, 2年生の英語教育では、上で述べたように実用や専門を重視した教育が行われるようになったために、かつての英語教育が担っていた教養教育 (Liberal Arts) 的側面が軽視されるようになってきた。しかしながら近年教養教育をもっと重視すべきだという声が強まってきている。その一例として東京工業大学のリベラルアーツ教育について紹介したいと思う。東京工業大学リベラルアーツセンター 教授の池上(2012)は『学び続ける力』の中で東工大の目指すリベラルアーツ教育に関して次のように説明している。

「日本の大学教育は、専門性に重点を置くようになっていますが、その結果、「人間としての教養」を軽視する傾向への反省が語られるようになっていきます。... 私たちは、「リベラルアーツ」を「人間としての教養」、また、「リベラルアーツ教育」を「人間としての教養教育」と捉え、日本の将来を担う若者たち一人ひとりがみずからの世界を広げるとともに、自己を深める教育の場として捉えています。... それは、一人ひとりの人間性を高め、また社会性を培うための教育です。」この言葉から東工大が教養教育を大学教育の重要な柱としていることをうかがい知ることができる。

また筒井(2012)は読売新聞の「論点スペシャル 問われる大学の価値」の中で1991年の大学設置基準の改正（一般に「大綱化」と呼ばれている）以降、教養教育軽視と専門主義・実用主義偏重が始まったことが現在の大学が抱える3つの大きな問題の1つであると指摘している。

## 2. 教養教育（Liberal Arts）の意味と意義

### 1. Liberal Artsの原義

「人を自由にする学問」 古代ギリシャにおいては、リベラル・アーツを学ぶことで非奴隷たる自由人としての資格ともいべき教養が身に付くと考えられていた。いわば自由人のレーゾン・デートルが教養の修得であった。欧米の名門大学のリベラル・アーツを重視する教育の源もここにあるといえる。

- ・ 筒井(2012) — 人間や社会の複雑さを学び、短絡的な発想を抑える。人間や社会を広く深くとらえる「総合的知識人」の育成
- ・ 仲正(2008) — 教養の本質は「知的な討論をするための基礎的な能力」の養成
- ・ 瀧本(2011) — リベラル・アーツは「人間を自由にするための学問」

私流に解釈すると「人間や社会の問題を考える際に偏見に囚われずに多角的な視野から考察できる知性」

### 3. 今回の授業実践の目的

戦前の旧制高校では学生は主として古典的名著の読書によって教養を練磨した。戦前の旧制高校に相当する現在の大学の教養課程では、大綱化以降の専門主義・实用主義偏重のため教養を深める教育を受ける機会が大幅に減少してしまった。また学生の読書時間も年を追って減ってきている。

そこで学生のリベラルアーツ（教養）を少しでも深化させる目的で15篇の作品を収録したテキストを使用して授業をおこなった。そして15作品の中から興味・関心を持った作品選んで、どの様なところに興味・関心を持ったかを報告するレポートを課した。今回の発表では、このレポートの結果及びその作品のどの様なところに興味・関心を持ったかに関して報告したい。

## 4. 授業科目と受講者

授業科目は同志社大学の全学部の3年生以上が履修できるリーディングの選択科目である「言語文化研究」である。このクラスの授業内容は英米の言語文化に関するテーマであれば、授業担当者の裁量によって決めることができる。

受講者は経済学部4年生2名3年生6名、商学部4年生2名3年生1名、社会学部4年生3名3年生21名、グローバル地域文化学部4年生1名3年生1名の総計37名である。その中には2名の韓国からの留学生が含まれている。

## 5. 使用テキスト

使用したテキストは、風間書房刊行、リベラルアーツ英語教育研究会編の『リベラルアーツのための英文精読演習 (Improving Your English Literacy for Liberal Arts)』である。このテキストの本書の構成の箇所、「本書は、グローバル時代に必要な英文読解力の向上と全人的で雅量のある教養人の育成を目的として編まれた、15篇の珠玉の英文からなるリーディングの教科書である」と述べられている。

このテキストには、15名の著者が選んだ文章が収録されているが、著者の所属は、理工系、栄養系、生命科学系、医療系、社会科学系、人文科学系、自然科学系と文系理系の枠を超えた非常に広い領域にわたっている。このテキストには、各パッセージの内容を確認する設問とテキストをより深く読んでいくための設問を含む5つの問題が用意されている。本書の末尾には切り取り線の入った各パッセージの答案・レポート用紙が添付されているので、提出用として利用することも可能である。

## 6. 収録されている作品とその作者

作品名	作者
<i>Silent Spring</i> (1962)	Rachel Carson
“Oshidori” (1904)	Lafcadio Hearn
“Why I Write” (1946)	George Orwell
<i>The Philosophy of Andy Warhol</i> (1975)	Andy Warhol
<i>The Picture of Dorian Gray</i> (1890/1891)	Oscar Wilde

作品名	作者
<i>Intelligence Reframed</i> (1999)	Howard Gardner
“Do Not Stand at My Grave and Weep” (c. 1930)	Attributed to Mary E. Frye
<i>The Great Gatsby</i> (1925)	F. Scott Fitzgerald
<i>The Selfish Gene</i> (1976)	Richard Dawkins
The Inaugural Address of the 44 <sup>th</sup> U. S. President (2009)	Barack H. Obama

作品名	作者
<i>What Makes You Not a Buddhist</i> (2007)	Dzongstar Jamyamg Khyentse
“The Tyger” and “The Lamb” (1794)	William Blake
“The Murders in the Rue Morgue ” (1841)	Edgar Allan Poe
“As Humans Change Landscape, Brains of Some Animals Change, too” (2013)	<i>The New York Times</i>
“Language Reform” (1946)	Report of the United States Education Mission to Japan

## 6. 授業方法と成績評価

授業形態として協同学習を取り入れた授業を実施した。最初の授業時に受講者を7つのグループに分けた。その結果、5名からなるグループが5つ、6名からなるグループが2つできあがった。各グループにはテキストに収録されている文章2つの和訳を義務付けた。13, 14週目には映画を視聴させ映画レビューの提出を義務付けた。15週目はテキストに関する質問の時間とした。定期テストは実施しなかった。

# 授業スケジュール

1 週	授業方法と成績評価の説明。グループ分け
2 週	最初に指名したグループによる和訳を受講者全員に配布させた。担当者は訳文に関して誤訳の指摘や修正はおこなわなかった。その後各グループに全員で協力して設問の解答作業をおこない解答用紙の提出するよう指導した。
3～9 週	最初に前の週で扱った英文の訳文を口頭で説明した。その後提出させた解答用紙を採点したものを返却し説明をおこなった。2 週と同じ作業をおこなわせた。
10～12 週	2つの英文に関して2 週と同じ作業をおこなわせ、提出させた解答用紙を採点したものを返却し説明をおこなった。最後の15 個目の文章に関しては、訳文無しで解答作業をおこなわせた。
13, 14 週	DVDによる映画の視聴
15 週	テキストの英文に関する質問を受け付けた。

# 成績評価

出席点	20点（1回の欠席で-3点とした。遅刻は3回の遅刻を1欠席とした）
グループでの和訳と解答作業	グループでの2回の和訳を20点とした。毎回の解答作業を20点とした。和訳の得点は担当者がおこなった。解答作業の得点も担当者の採点に基づいておこなった。
テキストのレポート課題	20点 授業で読んだ15の英文の中で、興味・関心を持った英文に関して詳述レポート課題を課した。
DVD視聴レポート課題	20点 アカデミー賞の作品賞を受賞したMoonlightを視聴させて映画レビューを書かせるレポート課題を課した。

## 7. レポート課題

論題：授業で扱った15篇の文章の中で興味・関心を持った文章を選んで（複数の文章の選択も可）、なぜこの文章に興味・関心を持ったかその理由を詳述して下さい。

執筆要項：以下の執筆要項に従って執筆してください。執筆要項に違反した場合、減点の対象になりますので注意して下さい。

1. Wordを使用して、横書きで書いて下さい。
2. 活字は10.5pointで、シングル・スペースで書いて下さい。
3. 分量は最低でもA4 1枚きっちり書いて下さい。上限はありません。
4. 英文、和文どちらでも可です。

## 8. レポート課題の結果とその考察

作品名	人数
<i>Silent Spring</i> (1962)	6
“Oshidori” (1904)	1
“Why I Write” (1946)	1
<i>The Philosophy of Andy Warhol</i> (1975)	0
<i>The Picture of Dorian Gray</i> (1890/1891)	6

作品名	人数
<i>Intelligence Reframed</i> (1999)	1
“Do Not Stand at My Grave and Weep” (c. 1930)	2
<i>The Great Gatsby</i> (1925)	1
<i>The Selfish Gene</i> (1976)	6
The Inaugural Address of the 44 <sup>th</sup> U. S. President (2009)	6

作品名	人数
<i>What Makes You Not a Buddhist</i> (2007)	1
“The Tyger” and “The Lamb” (1794)	1
“The Murders in the Rue Morgue ” (1841)	0
“As Humans Change Landscape, Brains of Some Animals Change, too” (2013)	7
“Language Reform” (1946)	9

1. 最も多くの学生が取り上げた文章は、“Language Reform” (1946) である。この文章は連合軍最高司令官ダグラス・マッカーサーの招聘で来日した対日米国教育使節団の報告書のなかの第2章Language Reformからの抜粋である。この文章で学生の興味・関心をひいたのは、国語改革に関する次の3つの改革案である。1. 漢字の数を減らすこと。2. 漢字を全廃し、ある種の仮名文字を採用すること。3. 漢字も仮名も全廃し、ある種のローマ字を採用すること。全ての学生が2と3の改革案に対して反対の意見を表明していた。漢字、平仮名、片仮名は日本文化の一部であり、この3つの書記体系を廃止すると確実に日本文化の一部が失われるというのが多くの学生の反対理由であった。

2. 2番めに多くの学生が取り上げていた文章は、“As Humans Change Landscape, Brains of Some Animals Change, too”(2013)である。この文章は、都市社会が動物に及ぼす影響に関して、進化生物学の視点から述べられたものである。この文章でほとんど全ての学生が興味ある箇所として引用していたのは次の文である。「2つの種、すなわち、白い足をしたハツカネズミとハタネズミにおいて、都市部や郊外から集められた動物の脳は、農場や他の田園地帯から集められた脳よりも、約6パーセント大きかった。」という箇所である。この動物における適応性の学習能力をダーウィンの進化論との絡みで論じたがくせいもいた。

3. “Oshidori” (1904)、 “Why I Write” (1946)、 *The Picture of Dorian Gray* (1890/1891)、 *The Great Gatsby* (1925)、 “The Tyger” and “The Lamb” (1794)など小説や詩、小説家のエッセイを取り上げた学生も多くいた。このテキストには世界初の推理小説といわれるエドガー・アラン・ポーの“The Murders in the Rue Morgue ”(1841)も収録されているが、この作品を取り上げた学生はいなかった。“Oshidori” (1904)、 “Why I Write” (1946)、 *The Great Gatsby* (1925)、 “The Tyger” and “The Lamb” (1794)を取り上げた学生は各1人であったが、 *The Picture of Dorian Gray* (1890/1891)を取り上げた学生は6人いた。

このテキストで引用されている箇所は、主人公のDorianが若く美しいままでいられる代わりに彼を描いた肖像画が年を取っていく、という人生を決断する場面です。Dorianが悪事を重ねるごとに、肖像画は醜さを増していきます。この肖像画は、彼の超自我があるいはドッペルゲンガーと解釈出来るかと思う。このユニークな物語設定とDorianがこの肖像画をナイフで突き刺すことによって絶命するsurprise endingが学生を強く魅了したと推察される。

4. 6人の学生が取り上げた*Silent Spring* (1962)は、カーソンの古典的名著である。現在日本の教科書で科学者の伝記が掲載されているのは、ファーブル、ガリレオ、カーソンなどごく少数であり、カーソンの伝記は小学校5年生の国語の検定教科書や中学・高校の英語の教科書に収録されている。農薬使用による環境汚染と環境保護の重要性に対する賛意から学生はこの文章を取り上げていた。

5. *The Selfish Gene* (1976)も6人の学生が取り上げていた。この文章ではユリカモメ、カマキリ、コウテイペンギンの取る利己的な行動が具体的な事例で説明されている。この文章を取り上げた学生はこの具体的事例に興味・関心をそそられたようだ。人間の乳幼児の行動に利己的な遺伝子の存在があることを指摘している学生もいた。

6. オバマのThe Inaugural Address of the 44<sup>th</sup> U. S. President (2009)も6人の学生が取り上げていた。演説の構成の上手さや言葉の選択の巧みさを評価する学生が多かった。キング牧師やケネディ大統領を引用してオバマの功績を論じた学生もいた。全ての学生がオバマのキャッチフレーズである"Yes, we can"を引用していた。オバマの政治の功罪を具体的に論じていた学生もいた。

## 9. DVD視聴課題

論題：13, 14週に視聴したアカデミー賞作品賞を受賞したMoonlightを未見の人に是非視聴したいと思わせるような映画レビューを書いて下さい。

執筆要項：以下の執筆要項に従って執筆してください。執筆要項に違反した場合、減点の対象になりますので注意して下さい。

1. Wordを使用して、横書きで書いて下さい。
2. 活字は10.5pointで、シングル・スペースで書いて下さい。
3. 分量は最低でもA4 1枚きっちり書いて下さい。上限はありません。
4. 英文、和文どちらでも可です。

## 10. DVD映画選択の方法

「移民」、「LGBT」、「人種」、「性差別」、「貧困」、「病気」といった我々を取り巻く問題を扱った15作の映画を収録したテキスト”Our Society, Our Diversity, Our Movies” (Joseph Tabolt, Koji Morinaga編著) の中で、受講者が視聴したいと思う映画を3作品選んでもらうアンケートを実施し、最も数が多かった”Moonlight”を視聴してもらうことにした。このテキストに収録されている映画は以下の通りである。

Unit 1 *Three Billboards Outside Ebbing, Missouri* , White trash – United by Desperation, 「ミズーリ州とプアホワイト」

Unit 2 *Moonlight* , LGBT – Assigning a Label, 「『ムーンライト』の主人公が抱える3つの差別」

Unit 3 *Hidden Figures* , Gender and racial segregation – Prejudice and Egocentrism, 「*Hidden Figures* というタイトルが示唆すること」

Unit 4 *12 Years A Slave*, Slavery systems – Human vs. Property, 「アメリカにおける黒人奴隷の歴史」

Unit 5 *Brooklyn*, Immigrants – Choosing a Home, 「アイルランドとアイルランド系アメリカ人」

Unit 6 *Gran Torino*, Immigrants – Be an Intercultural Interpreter, 「デトロイトという街と「グラン・トリノ」という車の持つ意味」

Unit 7 *The Visitor*, Illegal immigrants – An Illegal Life, 「アメリカにおける移民政策の歴史」

Unit 8 *English Vinglish*, Foreign languages – Foreign Language and Self-Confidence, 「インドと英語の関係」

Unit 9 *Lost in Translation*, Cross – Cultural communication – Frame of Mind, 「ローコンテクスト文化とハイコンテクスト文化」

Unit 10 *I, Daniel Blake*, State welfare – An Individual or A Number, 「イギリスの過酷な社会保障制度」

Unit 11 *The Theory of Everything*, Physical disability – Life is Chance: Pushing Past Boundaries, 「ALS (筋萎縮性側索硬化症)と2人のスター」

Unit 12 *Dallas Buyers Club*, Diseases– Does it Divide or Unite, 「HIV/AIDSと偏見」

Unit 13 *American Sniper*, PTSD – Finding a Cure, 「戦争とPTSD」

Unit 14 *Hotel Rwanda*, Refugees – Is Your World Peaceful?, 「ルワンダの歴史と虐殺」

Unit 15 *Schindler's List* – The Holocaust/ History – Sense of Reason, 「日本の2人のシンドラー」

## 11. DVD視聴課題についての考察

殆どの学生が、LGBT、DV、差別、貧困、いじめという言葉  
を切り口にしてレビューを書いていた。愛或いはアイデン  
ティティの確立がこの映画の主題であると述べていた学生が  
数名いた。この作品の見所を5つの視点から分析した、発表  
者が一番上手くかけていると思ったレビューを参考資料とし  
て配らせていただきましたので、参照していただければと思  
います。

## 12. まとめ

イギリスの物理学者で小説家でもあったC. P. Snow (1905-1980)は、*The Two Cultures* (邦題は『二つの文化と科学革命』)を出版し、人文科学と自然科学、各々の知的・精神的風土の乖離と無理解によってもたせられる社会的危機に対して警鐘を鳴らした。人文学者は自然科学的知に対して無知であり、また科学者は人文学的知に対して無知である。発表者自身、自らの自然科学的知識の不足を痛感することが多い。教養には深さと同時に広さも重要である。

受講生は全て人文学や社会科学を専攻する学生であったが、*Silent Spring*、*Intelligence Reframed*、*The Selfish Gene*、*“As Humans Change Landscape, Brains of Some Animals Change, too”*といった自然科学をテーマとする文書を取り上げた学生が20名いたということは、評価に値することであると考えている。この授業が学生の教養の幅を広げることに少しは貢献できた、といえるであろう。

## 13. 引用文献

C. P. スノー著、松井卷之助訳（2011）『二つの文化と科学革命』東京：みすず書房

池上彰（2012）『学び続ける力』東京：講談社

仲正昌樹（2008）『知識だけあるバカになるな！ 何も信じられない世界で生き抜く方法』東京：大和書房

瀧本哲史（2011）『武器としての決断思考』東京：星海社

筒井清忠（2012）「教員「ムラ社会」改善を」2012年2月6日 読売新聞朝刊

リベラルアーツ英語教育研究会編（2016）『リベラルアーツのための英文精読演習 Improving Your English Literacy for Liberal Arts』東京：風間書房

Joseph Tabolt, Koji Morinaga編著 *Our Society, Our Diversity, Our Movies* 東京：金星堂

ご清聴いただき有難うございます。